



アンリツ

# サステナビリティレポート

Anritsu Sustainability Report

# 2023

## 目次

### Introduction

- 03 アンリツグループについて
- 04 アンリツ At a Glance

### サステナビリティ経営

- 05 CEOメッセージ
- 06 サステナビリティの考え方
- 07 サステナビリティ推進体制
- 08 マテリアリティ
- 09 サステナビリティ経営が目指す未来
- 10 事業内容とSDGs貢献領域
- 14 サステナビリティ目標とその進捗
- 15 ステークホルダーとの対話・共創

### Environment

- 17 環境総括役員メッセージ
- 17 気候変動をはじめとする社会課題の解決
- 20 気候変動への対応
- 28 生物多様性保全
- 30 水資源の保全
- 32 環境汚染予防
- 34 資源循環
- 37 環境マネジメントシステム

### Social

- 42 人事総務総括役員メッセージ
- 42 人権の尊重
- 45 多様性の推進
- 49 人財育成
- 52 働きやすい環境づくり
- 55 健康経営と安全衛生
- 59 サプライチェーンマネジメント
- 62 品質と製品安全

### Governance

- 64 ガバナンス総括役員メッセージ
- 64 コーポレートガバナンス
- 66 リスクマネジメント
- 68 内部統制
- 69 コンプライアンス
- 73 情報セキュリティ
- 74 事業継続マネジメント

## 目次・編集方針

- Introduction
- サステナビリティ経営
- Environment
- Social
- Governance

## 編集方針

アンリツは、非財務情報の報告を行うため、サステナビリティレポートを年1回PDF形式で発行しています。サステナビリティレポート2023では、主に2022年度の活動を掲載しています。なお、アンリツは本レポート以外にも、統合レポートやウェブサイトなどの媒体を通して、ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションの向上に努めています。

### レポート

- WEB** 統合レポート
- WEB** コーポレート・ガバナンスに関する報告書
- WEB** 有価証券報告書

### ウェブサイト

- WEB** アンリツ株式会社・アンリツグループ
- WEB** 投資家のみなさまへ
- WEB** サステナビリティ

### 対象範囲

アンリツ(株)および日本国内・海外の子会社、関連会社を対象としています。報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- 「アンリツ」または「アンリツグループ」：記事内容がアンリツグループ会社全体の場合
- 「アンリツ(株)」：記事内容がアンリツ(株)単体の場合
- 「国内グループ」：記事内容がアンリツ(株)および日本国内に拠点を置くグループ会社の場合
- 「海外グループ」：記事内容が海外に拠点を置くグループ会社の場合

### 対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日  
※ 一部、対象期間前後の活動内容を含みます

### 参考としたガイドライン

- GRI サステナビリティ・レポート・スタンダード  
本レポートはGRIスタンダードに準拠して作成しています。
- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- 国連グローバル・コンパクト10原則
- ISO 26000：2010
- IFRS財団「SASBスタンダード」
- TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures：気候関連財務情報開示タスクフォース)

- WEB** GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード内容検索
- WEB** SASB対照表



アンリツは2006年3月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に署名し、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークに加盟しています。

### 発行日

2023年9月1日発行  
(前年度発行日 2022年8月31日)

### 第三者保証

環境データの一部については、第三者保証を受けています。詳しくは独立第三者の保証報告書をご参照ください。

**P.27** 第三者保証

### お問い合わせ

アンリツ株式会社  
サステナビリティ推進室

**WEB** 会社情報お問い合わせ

### 改訂履歴

- 2023年9月29日
- P.40 BOD(国内グループ)データ修正
- P.47 国内グループ従業員データ修正
- P.58 労働安全衛生関連データ修正

# アンリツグループについて

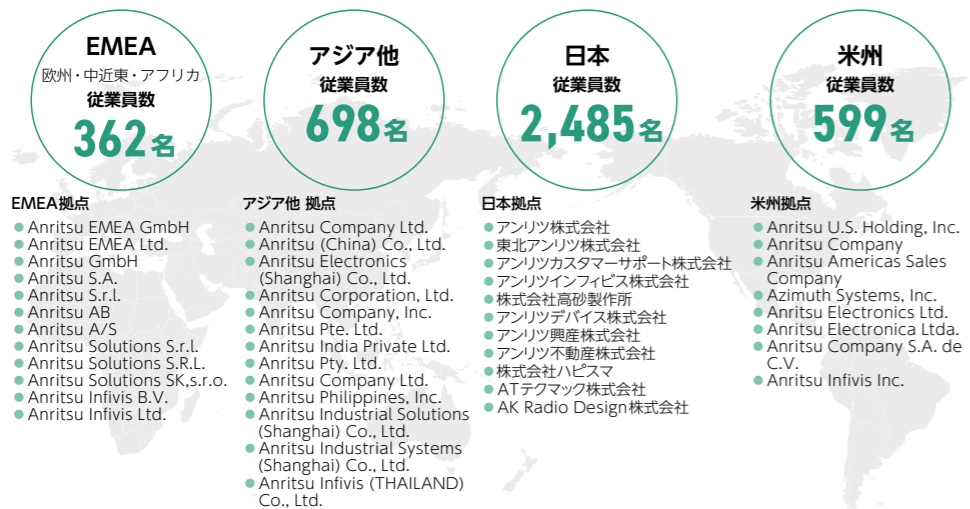
1895年創業の石杉社(後の共立電気電線(株))と1900年創業の安中電機製作所が合併し、1931年に安立電気(株)が設立され、1985年に社名をアンリツ(株)に変更しました。1895年の創業以来、アンリツは情報通信機器のパイオニアとして、コミュニケーションの進化・発展に携わり、その後、通信用測定器や食品の品質保証機器へと事業の幅を広げ、現在は通信計測・PQA(Products Quality Assurance)・環境計測・センシング&デバイスの4つの主要な事業を展開。開発・製造・技術・サービス拠点は世界に広がっています。

会社名	アンリツ株式会社 (ANRITSU CORPORATION)
本社住所	〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5-1-1
創業	1895年(明治28年)
資本金	19,218百万円(2023年3月31日現在)
売上高	110,919百万円(2023年3月期:連結)
従業員数	4,144名(連結)(2023年3月31日現在) 1,750名(単体)(2023年3月31日現在)
事業内容	電子計測器、食品・医薬品の品質保証システム、環境計測機器、デバイスなどの開発・製造・販売



アンリツ株式会社

## 開発・製造・技術・サービス拠点(2023年3月末時点)



## 地域別売上比率(2022年度連結)

EMEA 13%	アジア他 35%	日本 30%	米州 22%
----------	----------	--------	--------

## 通信計測事業

5G・IoT社会の実現を支える通信計測ソリューションを提供しています。



ラジオコミュニケーションテストステーション

### 主なお客様

#### モバイル市場

- スマートフォン・タブレット端末メーカー
- EMS(電子機器生産受託企業)
- チップセットメーカー
- 通信事業者
- 自動車および車載関連メーカー

#### ネットワーク・インフラ市場

- 通信事業者
- 通信装置メーカー
- 通信建設業者
- IT系サービスプロバイダ

#### エレクトロニクス市場

- 電子デバイス・コンポーネントメーカー
- 通信装置メーカー
- 電子機器メーカー
- 官公庁
- スマートフォン・タブレット端末メーカー
- 自動車および車載関連メーカー
- 大学・研究機関

## 環境計測事業

社会インフラの維持、脱炭素社会の実現を支える環境計測ソリューションを提供しています。



ハイブリッド電源

### 主なお客様

#### 環境計測市場

- 官公庁・自治体
- EVおよび電池関連メーカー
- 映像配信事業者

## PQA事業

食品や医薬品の安全と安心の実現に向け、お客さまの製造現場の多種多様な悩みや問題を解決するソリューションを展開しています。



X線検査機



オートチェッカ(重量選別機)

### 主なお客様

#### 食品市場

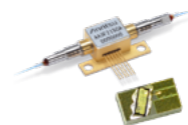
- 食品メーカー(加工食品、原材料、畜肉水産、農産物)

#### 医薬品市場

- 医薬品・化粧品メーカー(錠剤、カプセル、液剤、貼付剤)

## センシング&デバイス事業

最先端のデバイス技術、センシング技術を基盤に、お客さまの要望に応じた高品質なカスタム製品を供給しています。



SOA(半導体光増幅器)

### 主なお客様

#### センシング&デバイス市場

- 電子機器メーカー
- 通信装置メーカー
- 眼科医療機器メーカー

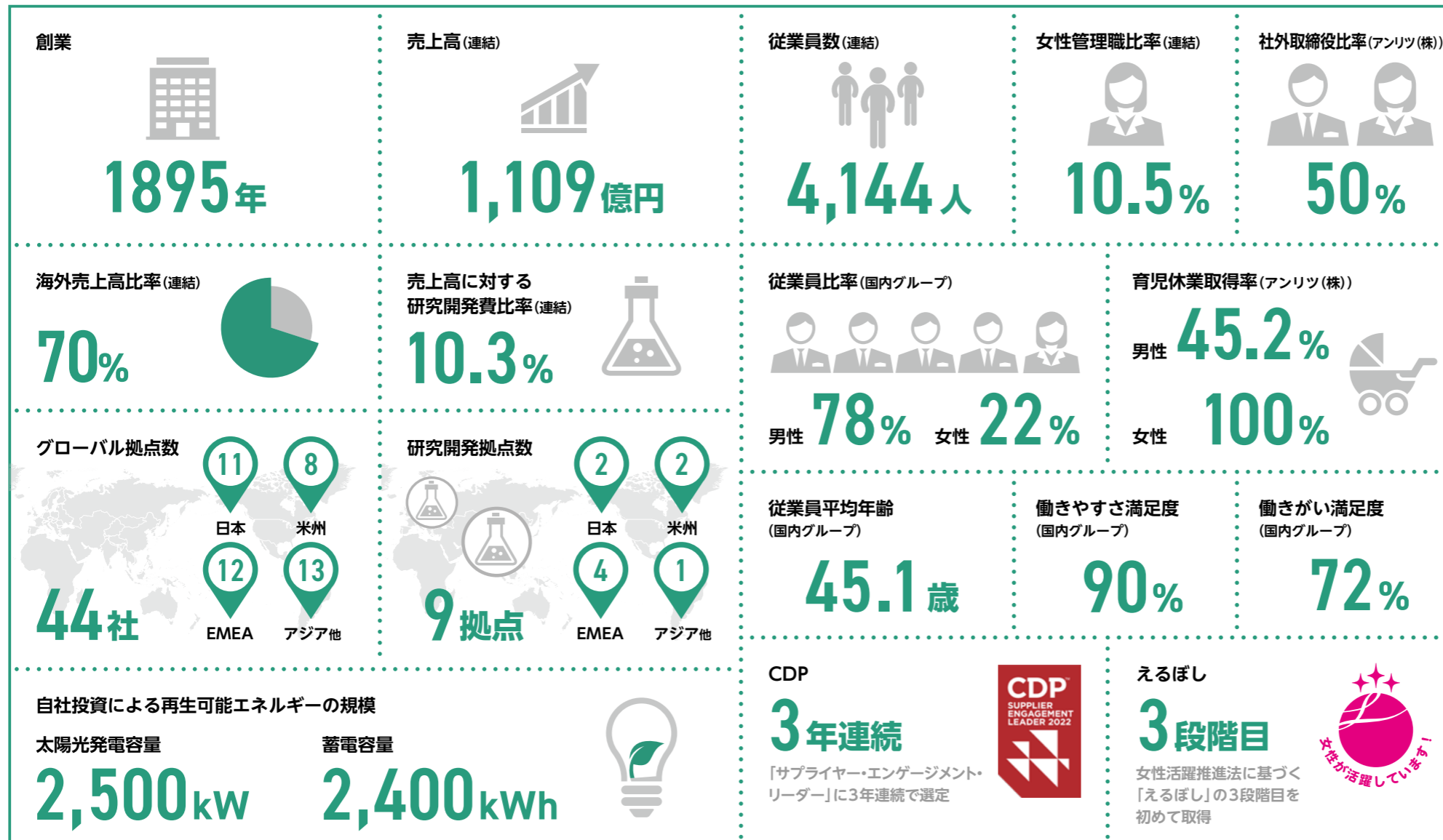
## 事業別売上比率(2022年度連結売上高:1,109億円)

通信計測事業 66%	PQA事業 22%	6%	6%
------------	-----------	----	----

その他

# アンリツ At a Glance

2023年3月末時点



目次・編集方針

## Introduction

アンリツグループについて

アンリツ At a Glance

サステナビリティ経営

Environment

Social

Governance



## 誠実な事業活動を通じて 持続可能な未来社会づくりを推進

代表取締役社長 グループCEO  
濱田 宏一



### 脱炭素と人権尊重への指針を示した2022年度

2022年度はウィズコロナによって世界経済が回復の兆しを見せた一方で、地政学リスクの高まりや大規模な自然災害が起こり、エネルギーや人権問題が深刻化しました。アンリツはそれらへの対応とともに、持続可能な未来社会づくりに向けた取り組みを着実に進めました。特に環境と社会の分野では、今後のESG活動の要となる「カーボンニュートラル宣言」と「アンリツグループ人権方針の制定」を行いました。

脱炭素の活動では、2050年までに事業活動に伴う温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、SBTの1.5℃目標の計画を再申請しました。近年の異常気象による自然災害の頻発化・激甚化を受けて、私はアンリツの最重要マテリアリ

ティである「気候変動への対応」を加速させる必要があると感じています。従って、当社独自の取り組みである太陽光による再生可能エネルギーの自家発電・自家消費の「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」と、自社製品の省電力化を一層強化し、バリューチェーン全体での脱炭素化を推進していきます。アンリツグループ人権方針は、人権に配慮した活動強化の最上位の指針となります。人権尊重の取り組みに『ここまでやれば十分』という基準は存在しません。我々は常に一人ひとりの個性や多様性を尊重し、人権について学び続けながら、時代と共に変化する課題に誠実に取り組んでいきます。

### 2023年度は脱プラスチックと人権尊重に取り組む

2023年度のテーマは、「脱プラスチック」と「人権

尊重」です。

脱プラスチックに関しては、プラスチック基本方針を制定し、事業活動におけるプラスチックごみゼロの実現に向けて動き出します。アンリツはかねてより、納品後すぐに捨てられてしまうプラスチック包装を削減する努力をしてきました。プラスチック汚染が地球環境に深刻な負の影響を及ぼす今、我々が慣れ親しんできた使い捨て文化に別れを告げる時が来ているのではないのでしょうか。アンリツはこの課題に真摯に向き合い、ステークホルダーのみなさまの理解を得ながら、脱プラスチック社会の実現を目指します。人権尊重に関しては、人権リスクアセスメントにより優先的に取り組むべき課題を明確にして、専門家やステークホルダーのみなさまからのご意見を伺いながら、アンリツグループ人権方針に基づいた人権尊重の取り組みを実行していきます。

### 未来社会の基盤を支えるアンリツの技術力

ICTを活用した通勤の減少や自動運転による物流の効率化、グリーンデータセンターによる省電力化など、社会は今、脱炭素化に向けて大きく変化しようとしています。アンリツ製品は日常生活で目にする機会は必ずしも多くはありませんが、脱炭素社会の基盤となるこれらのIT技術を支える通信分野において重要な役割を果たしています。アンリツはこのオリジナル&ハイレベルな「はかる」技術に磨きをかけ、「誠と和と意欲」をもってこれからも安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に向けて取り組んでいきます。

## サステナビリティの考え方

2021年4月、アンリツは2030年に向けて新たな経営ビジョンと経営方針の制定、およびサステナビリティ方針の改定を行いました。

経営理念、ビジョン、方針を基に従業員一人ひとりが行動し、ステークホルダーのみなさまと共に、持続可能な未来づくりに挑んでいきます。



### サステナビリティ方針

私たちは「誠と和と意欲」をもってグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを通じて、企業価値の向上を目指します。

- 1 長期ビジョンのもと事業活動を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。
- 2 気候変動などの環境問題へ積極的に取り組み、人と地球にやさしい未来づくりに貢献します。
- 3 すべての人の人権を尊重し、多様な人財とともに個人が成長し、健康で働きがいのある職場づくりに努めます。
- 4 高い倫理観と強い責任感をもって公正で誠実な活動を行い、経営の透明性を維持して社会の信頼と期待に応える企業となります。
- 5 ステークホルダーとのコミュニケーションを重視し、協力関係を育み、社会課題の解決に果敢に挑んでいきます。

改定 2021年4月

サステナビリティ方針は、誠実な企業活動を通じてグローバルな社会の要請に対応し、社会課題の解決に貢献してこそ企業価値の向上が実現されるという考え方に立つものであり、2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の5つのP、すなわち [People] [Planet] [Prosperity] [Peace] [Partnership] の要素を包含しています。

目次・編集方針

Introduction

### サステナビリティ経営

CEOメッセージ

#### サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

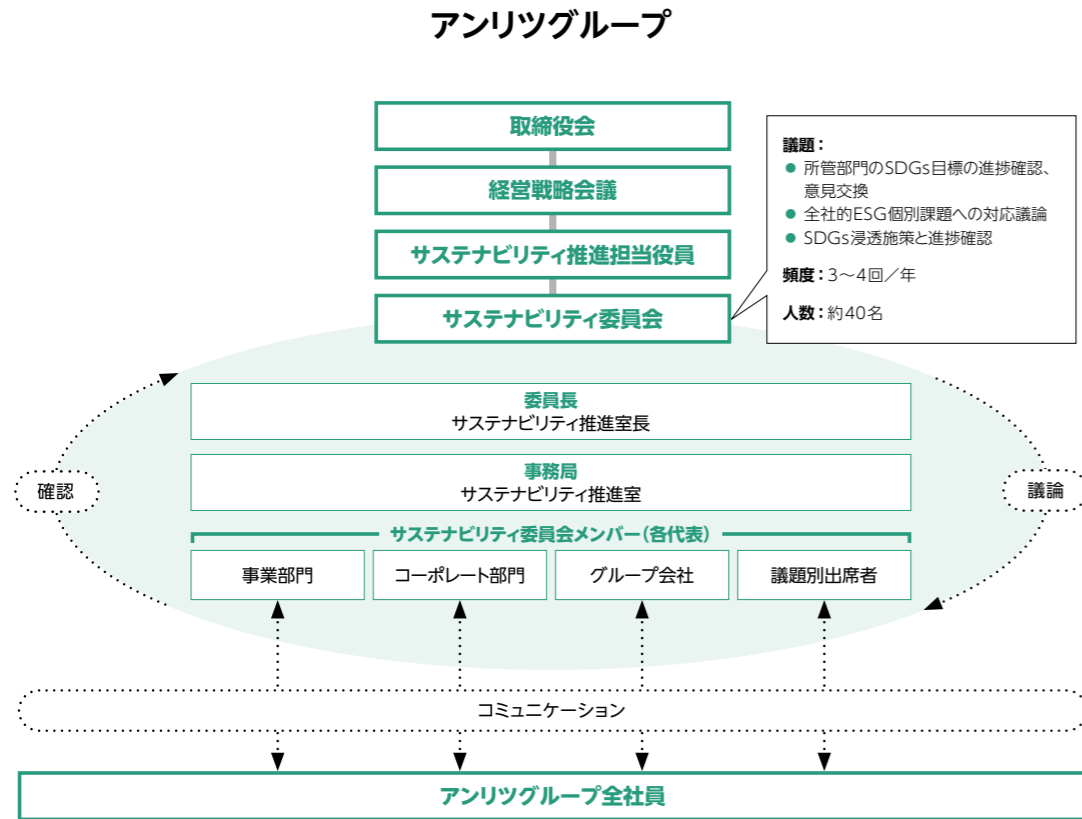
Social

Governance

## サステナビリティ推進体制

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針に基づき、サステナビリティ委員会が中心となって活動を推進しています。

### サステナビリティ推進体制



### ガバナンス

アンリツでは、主要な部門の代表者からなる会議体を2023年4月にサステナビリティ推進会議からサステナビリティ委員会へ改め、重点項目を明確にして情報を共有し、改善に向けた議論を行い、その内容を各代表者から各部門に展開・浸透させています。また、サステナビリティ推進担当役員が報告する経営戦略会議および取締役会において進捗状況を議論しています。なお、2022年度は、取締役会でのサステナビリティ課題に関する議論は13件でした。

サステナビリティ推進室は、監査等委員と経営監査室による監査を受審し、サステナビリティ活動において設定している課題の進捗状況、社員への浸透活動、リスクマネジメント、内部統制の状況などについてディスカッションを行っています。

### 社内浸透のための取り組み

サステナビリティを推進していく上で、社員一人ひとりの意識を向上させることが重要と考え、社内浸透に向けたさまざまな取り組みを行っています。

- アンリツグループ全従業員を対象としたeラーニングでの研修の実施
- SDGsケーススタディ発行と職場ディスカッションの実施
- 人権課題を取り上げた記事の発信
- SDGsの従業員浸透度調査

P.51 サステナビリティ研修

目次・編集方針

Introduction

#### サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

#### サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

Social

Governance

↑ 前ページへ戻る

↓ 次ページへ進む

↶ 直前のページへ

# マテリアリティ

アンリツはサステナビリティ経営において、「事業を通じて解決する社会課題」と「社会の要請に応える課題 (ESG)」への対応を両輪とし、事業分野別とESG分野別のマテリアリティ (重要課題) を設定しています。2021年4月の経営ビジョン、経営方針およびサステナビリティ方針の改定と、セグメント内の体制変更、さらに2022年1月から (株) 高砂製作所をグループに加えたことから、社会課題の重要度とアンリツの企業価値向上の2つの視点でマテリアリティを見直しました。

視点	事業					ESG					
	顧客・ビジネス環境			■ 環境		■ 社会	■ ガバナンス				
リスクと機会	機会					リスク					
	デジタル革新による新しい事業機会への進出		安全で安心できる食品や医療・医薬品の要求		脱炭素化の要求	気候変動による災害	人権侵害 (サプライチェーン含む)	マイノリティへの差別やハラスメント	経営の透明性を無視して社会の不信を招く		
マテリアリティ	DX技術革新への対応	強靱なITインフラ整備	食品ロスの低減	品質保証ソリューションの提供	健康的な生活の確保	自然災害に対する防災・減災	脱炭素社会へ貢献する製品の提供	気候変動への対応	人権の尊重	多様性の推進 (ダイバーシティ&インクルージョン)	経営の透明性維持

## 事業分野別マテリアリティ

### 通信計測事業 : DX技術革新への対応、強靱なITインフラ整備

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、安全・安心な通信インフラの構築に通信テストソリューションで貢献する。

### PQA事業 : 食品ロスの低減、品質保証ソリューションの提供

安全で安心できる食品や医薬品の安定供給を目指すお客さまをサポートし、高信頼・高感度の検査機と品質管理制御システムで生産ラインの品質検査工程自動化や食品ロス低減に貢献する。

### 環境計測事業 : 自然災害に対する防災・減災、脱炭素社会へ貢献する製品の提供

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、情報通信ソリューションで新たなデジタル社会の変革、EV (電気自動車) や電池の評価ソリューションで脱炭素社会の実現に貢献する。

### センシング&デバイス事業 : 強靱なITインフラ整備、健康的な生活の確保

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、光デバイス事業、超高速電子デバイスで安全・安心で快適な社会の実現に貢献する。

## ESG分野別マテリアリティ

### ■ 環境 (Environment) : 気候変動への対応

気候変動への対応を最も重要なマテリアリティとしています。世界的な気候変動は、社会生活や産業界に多大な影響を及ぼし、洪水や干ばつなどの自然災害を引き起こすからです。アンリツの製造拠点である福島県郡山市の東北アンリツ第一工場が、過去2回にわたり河川氾濫による浸水被害に遭いました。また、サプライヤーも被災するなど、アンリツの調達・製造・物流のパリューチェーン全体に影響をもたらす課題であると認識しています。気候変動に大きな影響を与える温室効果ガス削減のため、アンリツは再生可能エネルギーの自家発電・自家消費に優先的に取り組んでいきます。

### ■ 社会 (Social) : 人権の尊重、多様性の推進 (ダイバーシティ&インクルージョン)

人権の尊重と多様性の推進をアンリツグループ共通の考え方として適用し、社内に浸透させます。変化が多く予想困難で複雑な現代において企業が成長を続けていくためには、多様な価値観を持つ人財の力が必要と認識しているからです。また個々人の能力向上が会社の成長に欠かせないことから人財の育成にも取り組んでいきます。

### ■ ガバナンス (Governance) : 経営の透明性維持

経営の透明性を維持し、社会の信頼と期待に応える企業になることを目指しています。コーポレートガバナンス強化のために取締役会の実効性向上に取り組むほか、リスクマネジメント推進や社会的責務である情報セキュリティの強化を進めていきます。

目次・編集方針

Introduction

## サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

### マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

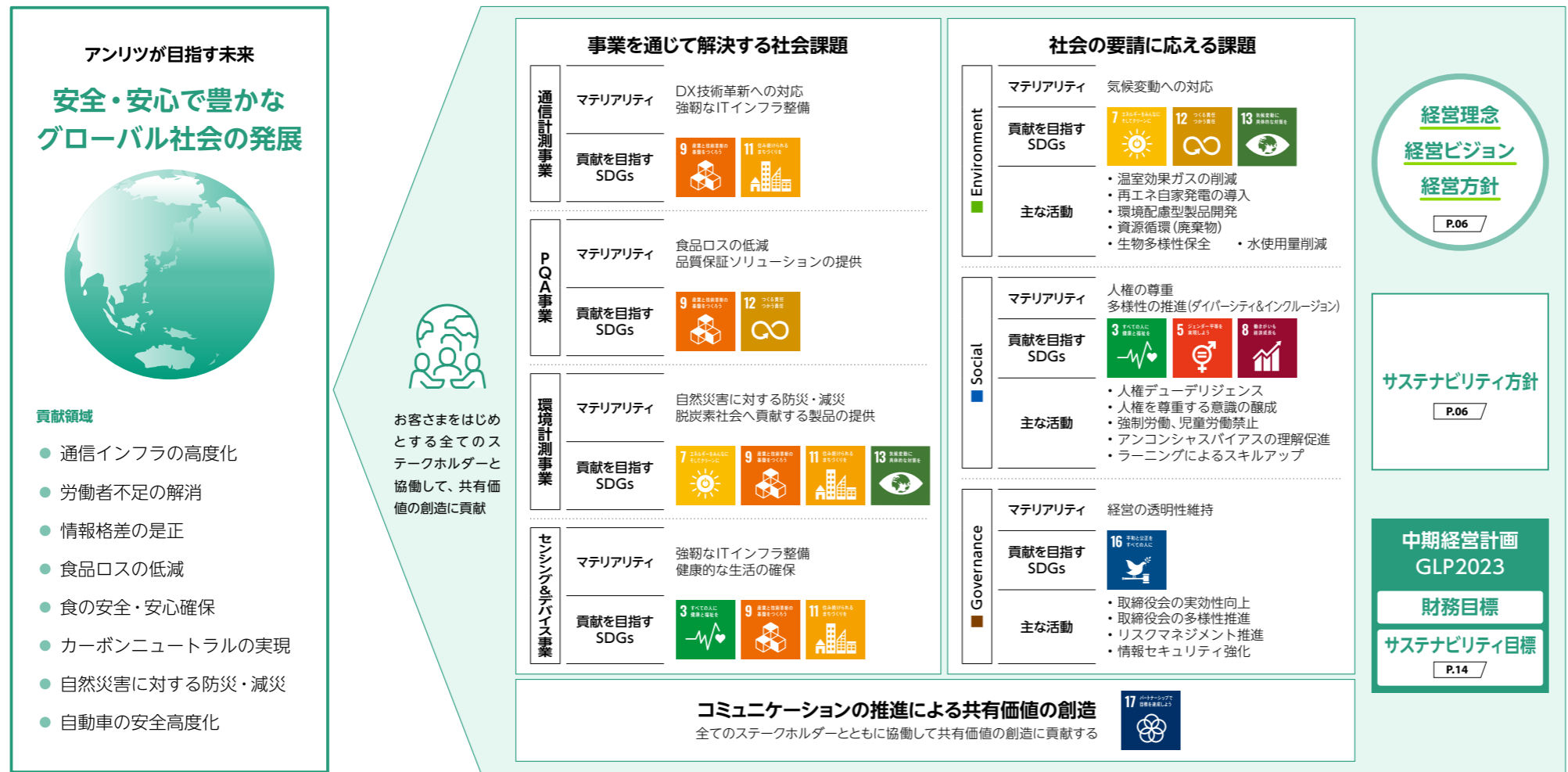
Social

Governance



# サステナビリティ経営が目指す未来

アンリツは、サステナビリティ経営を通じてグローバル社会の持続可能な未来づくりに貢献することを目指しています。事業においては、アンリツのコンピテンシーである「はかる」技術を中心にイノベーションを生み出し、お客さまとともに社会課題の解決に貢献します。そして、社会の要請に応える課題に向き合い、ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを重視し、グローバル社会の発展に向けて取り組みます。



目次・編集方針  
Introduction

**サステナビリティ経営**

- CEOメッセージ
- サステナビリティの考え方
- サステナビリティ推進体制
- マテリアリティ
- サステナビリティ経営が目指す未来
- 事業内容とSDGs貢献領域
- サステナビリティ目標とその進捗
- ステークホルダーとの対話・共創

Environment  
Social  
Governance

# 通信計測事業

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、安全・安心な通信インフラの構築に通信テストソリューションで貢献

## マテリアリティ

- DX技術革新への対応
- 強靱なITインフラ整備

## 社会課題

- DX推進
- ITインフラの増強
- 交通事故の減少、交通渋滞の解消
- 産業の効率化、人材不足の解消
- 地域格差の解消

## アンリツの強み

- 光、伝送、無線、プロトコルにわたる製品群と通信・測定技術
- 開発・製造・保守まで顧客をシームレスにサポート
- お客さまやサプライヤーとのパートナーシップで最先端製品をいち早く提供
- グローバル開発・販売体制でタイムリーにお客さまをサポート



## 事例 1

### 無線モジュールの品質保証ソリューションを提供し、自動運転システムの実用化に貢献

自動運転は、過疎地域の人々や高齢者の移手段の確保、運送業界のドライバー不足という社会課題を解決する社会インフラとして期待されています。自動運転時は無線通信ネットワークやGPSから得た周囲の車両や歩行者・自転車の情報が車両に送られるため、膨大な情報がリアルタイムでやりとりされます。アンリツは、この通信に必要な車両搭載用無線モジュールの品質を保証するための測定器を、開発用から製造用まで幅広く自動車業界のお客さまに提供することで、自動運転システムの実用化を支えています。



無線端末のアプリケーションを総合的に評価するシグナリングテスト



## 事例 2

### 干渉波の探索ソリューションにより産業のDXに貢献

エリアを限定して利用できるネットワーク「ローカル5G」が、企業や自治体で活用され始めています。この技術によって建設現場や農業、工場で使用する機器がネットワークにつながり、作業の効率化や安全性向上、人材不足解消などの課題を解決することが期待されています。一方で、複数の無線通信システムが運用されている今日、干渉波による通信障害の発生リスクが高まっています。ローカル5Gを安定運用するためには、干渉波の種類や場所を突き止めることが重要です。アンリツは、干渉波探索ソリューションをお客さまに提供し、強靱な通信インフラ整備をサポートすることで、産業のDXに貢献しています。



## サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

### 事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

Social

Governance

## PQA事業

安全で安心できる食品や医薬品の安定供給を目指すお客さまをサポートし、高信頼・高感度の検査機と品質管理制御システムで生産ラインの品質検査工程自動化や食品ロス低減に貢献

### マテリアリティ

- 食品ロスの低減
- 品質保証ソリューションの提供

### 社会課題

- 食品と医薬品の安定供給
- 食品ロスの低減

### アンリツの強み

- 高速かつ高精度なインライン品質検査技術
- 多様な生産ラインに検査機を導入する適応力
- 充実した保守体制と熟練した保守エンジニア
- 食品検査市場での実績とトップクラスの市場地位



## 事例 1

### 高精度な重量選別機を提供し、安全な医薬品の安定生産に貢献

世界的な医薬品需要の増加により、医薬品製造メーカーには品質維持と生産性向上の両立が求められています。特に、充填量のわずかな差でも効能や副作用に影響する抗がん剤・免疫抑制剤などの高活性薬には厳しい質量管理が求められます。

アンリツは質量のほか、異物混入、印字やシールの不良を検査できるソリューションを医薬品メーカーに提供し、安全な医薬品の安定供給に貢献しています。アンリツのカプセル用オートチェッカは、±0.5mgという業界最高レベルの精度で、1時間あたり最高23万個のカプセルを選別できる検査機器です。



医薬品向けカプセル用オートチェッカ(重量選別機)。±0.5mgの高精度を実現し、抗がん剤・免疫抑制剤など、厳しい質量管理が求められる場合の全数検査に適しています



アンリツのオートチェッカの1号機が納められたのも医薬品メーカーでした。以来、アンリツの技術は医薬品業界の品質管理への厳しい姿勢に学び、発展を続けてきました



## 事例 2

### 品質検査ソリューションを通じて食品ロス低減に貢献

加工食品が出荷され市場に流通した後、不良品であることが判明すると、大量の食品を回収して廃棄しなくてはなりません。アンリツは、混入した異物、割れや欠け、包装不良をチェックするX線検査機や金属検出機を食品メーカーへ提供し、不良品の流出防止をサポートしています。また、万が一、不良品が流出した場合にも、総合品質管理・制御システムにより、生産された製品の全てのX線検査画像データを確認・分析してロットを特定できるため、食品の大量廃棄を防ぐことができます。アンリツは食品メーカーへの品質検査ソリューションの提供を通じて、食品ロスの低減に貢献しています。



X線検査機。食品に混入した金属や石、除去しきれなかった骨などを検出します



複数の検査機器の測定データの記録や動作履歴を一元管理できる、総合品質管理・制御システム

## 環境計測事業

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、情報通信ソリューションで新たなデジタル社会の変革、EV（電気自動車）や電池の評価ソリューションで脱炭素社会の実現に貢献

### マテリアリティ

- 自然災害に対する防災・減災
- 脱炭素社会へ貢献する製品の提供

### 社会課題

- レジリエントな社会の実現
- DX推進
- カーボンニュートラル社会の実現

### アンリツの強み

- 高度な独自技術を融合したソリューションの提供
- お客さまの課題を的確に把握し解決する提案力



## 事例 1

### 防災コックピットソリューションで災害レジリエンス強化に貢献

近年、気候変動の影響による自然災害が頻発化・激甚化しており、災害対策の充実と強化が図られています。国土交通省は、迅速な避難誘導を行うために、河川や道路など各所の監視カメラ映像やセンサー情報の収集に取り組んでいます。

アンリツは、各種防災情報を一元化し、リアルタイムで監視できる防災コックピットソリューションを開発。官公庁や自治体へ提供することで、災害時の的確な判断をサポートし、災害レジリエンス強化に貢献しています。



## 事例 2

### EV試験装置の提供によりカーボンニュートラル社会の実現へ貢献

カーボンニュートラル社会の実現に向け、世界中でEVの開発が加速しています。アンリツは、2022年1月に高度なエネルギー制御技術とエミュレーション技術を持する(株)高砂製作所をグループに迎えました。

(株)高砂製作所は、EVの主要部品であるバッテリー、インバータ、モータの性能や信頼性を評価できるEVパワーエミュレーション装置やバッテリー充放電試験システムなど、各種試験装置をEV・電池関連メーカーへ提供し、地球環境に優しい交通システムへの早期移行に貢献しています。



#### 充放電電源 (充電・放電動作を再現)



#### 双方向直流電源 (バッテリー動作を再現)



充放電電源と双方向直流電源を1台に凝縮したハイブリッド電源。モータ、インバータやバッテリーなどの複雑な挙動を再現することができ、EVバッテリーの開発期間を大幅に短縮することができます

### サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

### 事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

Social

Governance



# センシング&デバイス事業

デジタル革新で新たな社会の変革を目指すお客さまをサポートし、光デバイス事業、超高速電子デバイスで安全・安心で快適な社会の実現に貢献

## マテリアリティ

- 強靭なITインフラ整備
- 健康的な生活の確保

## 社会課題

- ITインフラの増強
- 産業分野の省エネ化、環境負荷の軽減
- 医療技術の向上
- 健康寿命の延伸

## アンリツの強み

- 化合物半導体をコアとする先端的なデバイス技術
- 結晶成長などのウエハ工程からパッケージングまで自社一貫プロセスで柔軟な対応力と高品質を実現



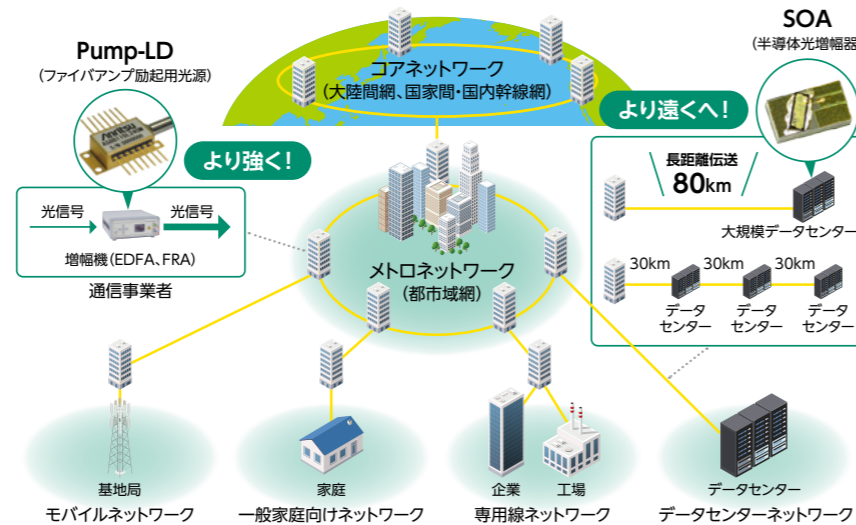
## 事例 1

### 半導体光デバイスの供給により通信インフラの安定稼働と省電力化に貢献

AI、SNS、動画配信、ゲームなどのクラウドサービスの普及により、データ通信量は増加の一途をたどり、安定した通信インフラは人々の生活に欠かせないものになりました。

通信インフラの重要な構成要素であるデータセンターは、長距離光通信網により相互接続されています。

アンリツは、光通信網で使用する通信機器に搭載されている光トランシーバの受光部に、光信号を劣化させることなく増幅させるSOA (半導体光増幅器) を提供することで安定した通信インフラ構築に貢献しています。また、チップオンキャリアタイプや高温環境でも増幅率を維持するSOAの提供で、通信機器の小型化や低消費電力化にも貢献しています。



## 事例 2

### SLDや波長掃引光源の提供により眼科医療分野に貢献

近年、高齢化による眼病増加やスマートフォンの長時間使用による若年性近視の増加など、これまで以上に眼科診断の重要性が高まっています。

アンリツは、眼科診断機器に組み込まれるSLDや波長掃引光源を提供することで、患者の負担が少ない非接触かつ高精度な網膜検査を可能とし、早期の加齢黄斑変性症や緑内障の発見、白内障の早期治療、軸性近視の予防などに貢献しています。



眼科OCT (網膜断面観測装置)

光の干渉を利用して物体や人体の内部を断層撮影するOCT (光干渉断層撮影装置) に組み込まれたアンリツ SLDは、高分解能な検査結果を得るためのキーデバイスです

## サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

## 事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

Social

Governance

## サステナビリティ目標とその進捗

アンリツは各事業部門、コーポレート部門、グループ会社が3カ年ごとの中期経営計画(GLP: Anritsu Global Long Plan)を策定しています。2021年度から2023年度を対象とした中期経営計画「GLP2023」では、ESG分野におけるサステナビリティ目標を設定しており、社会の持続可能性を阻害するさまざまな課題の解決に向けて、積極的に取り組んでいます。

KPI: GLP2023のサステナビリティ目標(2021年～2023年度までの目標)		2021年度実績	2022年度実績
Environment 環境	温室効果ガス(Scope1+2) <sup>*1</sup>	2015年度比 23%削減	12%削減 <sup>*3</sup>
	温室効果ガス(Scope3) <sup>*1</sup>	2018年度比 13%削減	14.7%削減
	自家発電比率(PGRE 30) <sup>*2</sup>	13%以上(2018年度電力消費量を基準)	6.7% <sup>*4</sup> 2022年3月末時点
Social 社会	女性の活躍推進	女性管理職比率15%以上(2021年3月末時点 10.8%)	10.9% 2022年3月末時点 ※連結
	高齢者活躍推進	70歳までの雇用および新処遇制度確立 (2020年度実績 65歳までの雇用延長制度あり)	70歳までの雇用および新処遇制度制定
	障がい者雇用促進	職域開発による法定雇用率2.3%達成(2021年3月末時点 2.05%)	2.54% 2022年3月末時点 ※特例子会社ハピスマとの合算
	サプライチェーン・デューデリジェンスの強化	3年累積10社以上(2021年3月末時点 0社)	6社実施
	CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信と教育	情報発信年2回以上、教育年1回以上(2021年3月末時点 情報発信2回、教育1回)	情報発信3回、教育1回
Governance ガバナンス	取締役会の多様性の推進	社外取締役比率50%以上(2021年3月末時点 44%(9人中4人))	50%(10人中5人)
	海外子会社の内部統制構築	全海外子会社が統制自己評価(CSA)の基準を満たす	2023年度の評価に向けて、CSAの判断基準や各社に求められる水準を定義中(2022年度完成予定)

### カーボンニュートラル宣言後のKPIについて

2022年12月に、2050年までに事業活動に伴う温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラル宣言を行い、UNFCCC(国連気候変動枠組条約事務局)のRace To Zeroに参加しました。これに対応するため、「Environment 環境」の目標は、2030年をターゲットとする中期目標を「産業革命前と比較して気温上昇を1.5℃に抑える」水準と整合した数値に引き上げ、2023年5月にSBTiに再申請しました。この際、(株)高砂製作所やAnritsu Infivis Inc.(米国)などを含めるバウンダリーの変更を行っています。

KPI: 1.5℃目標(2030年度までの目標)		2021年度実績	2022年度実績
Environment 環境	温室効果ガス(Scope1+2) <sup>*1</sup>	2030年度までに2021年度比で42%削減する	2021年度比で6.2%増加
	温室効果ガス(Scope3) <sup>*1</sup>	2030年度までに基準年度 <sup>*5</sup> 比で27%削減する	基準年度比で8.4%削減
	自家発電比率(PGRE 30) <sup>*2</sup>	2018年度のアンリツグループの電力消費量 <sup>*6</sup> を基準に、2030年ごろまでに0.8%から30%程度まで高める(PGRE 30)	—

※1 Scope1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)、Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出、Scope3: Scope1・Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)。当社ではScope3のKPIにCategory1および11を採用

※2 PGRE30は2018年度の当社グループの電力使用量を基準に、再生エネの一つである太陽光自家発電比率を、2018年度の0.8%から2030年頃を目途に30%程度にまで高めていくアンリツ独自の目標

※3 米国における配電会社の請求書記載の電力使用量の誤りを受け、訂正した値

※4 2021年度のデータは、米国の太陽光発電量を管理しているクラウド上のソフトウェアのバグによる誤りであることが判明したため、16.8%から6.7%に訂正

※5 基準年度: 2018年度から2021年度までの平均値

※6 アンリツ(株)の100%子会社ではないATテクマック(株)の電力消費量は除く

目次・編集方針

Introduction

サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

ステークホルダーとの対話・共創

Environment

Social

Governance

## ステークホルダーとの対話・共創

アンリツは、ステークホルダーのみならずと協働し、共有価値の創造に貢献することを目指しています。

そのため、ステークホルダーとのコミュニケーションを重視しており、適切かつタイムリーな情報開示に努めています。またパートナーシップの構築を通じて、さまざまな社会課題の解決に向けた活動を行っています。

ステークホルダー	テーマ・目的	コミュニケーション方法	参照
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>公平かつ適時・適切な情報開示</li> <li>企業の信頼性の向上</li> <li>アンリツへの理解促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決算説明会</li> <li>証券会社主催のカンファレンスへの参加</li> <li>統合レポート</li> <li>株主総会</li> <li>IR個別面談</li> <li>ウェブサイト</li> </ul>	<p><b>WEB</b> 最新IR資料</p>
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さまのニーズに応える独創的で高いレベルの製品とサービスの提供</li> <li>アンリツおよびアンリツ製品のブランド価値の向上と、アンリツに対する理解と信頼の向上</li> <li>公正な営業活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業活動</li> <li>お客さま相談窓口</li> <li>宣伝、広告</li> <li>ウェブサイト</li> </ul>	<p><b>WEB</b> アンリツ株式会社・アンリツグループ</p>
サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互信頼に基づいたパートナーシップの構築</li> <li>サプライチェーン全体でのCSR推進</li> <li>公正な調達活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>懇親会、情報交換会</li> <li>CSR調達調査、グリーン調達、人権デューデリジェンス</li> <li>製品展示会</li> <li>パートナーQU活動</li> <li>コラボレーションルームの設置</li> </ul>	<p><b>P.59</b> サプライチェーンマネジメント</p>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員一人ひとりの個性、多様性、人格を尊重し、能力を十分に発揮できる働き方の実現</li> <li>健康と安全に配慮した生き生きと働ける職場環境の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員エンゲージメント調査</li> <li>上司と部下による面談</li> <li>企業倫理調査</li> <li>ヘルプライン(通報・相談窓口)</li> </ul>	<p><b>WEB</b> 人的資本に関する取り組み</p> <p><b>P.45</b> 多様性の推進</p> <p><b>P.49</b> 人材育成</p> <p><b>P.52</b> 働きやすい環境づくり</p> <p><b>P.55</b> 健康経営と安全衛生</p>
国連・国際機関、政府・自治体	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際社会への協調と発展への貢献</li> <li>国際ルールや法令の遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際的なイニシアチブへの参加</li> <li>官民連携プロジェクト</li> <li>政策提言</li> </ul>	<p><b>WEB</b> 国連グローバル・コンパクトへの賛同</p> <p><b>P.40</b> 業界団体・イニシアチブへの参加・賛同</p> <p><b>P.57</b> 労働基準に関するイニシアチブへの参加</p>
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題への積極的な取り組み</li> <li>人と地球が共存できる豊かな社会づくりへの貢献</li> <li>情報開示による環境ブランド向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所における環境負荷削減活動の推進</li> <li>社内外のステークホルダーとの環境コミュニケーション促進</li> <li>地域でのボランティア活動</li> </ul>	<p><b>P.20</b> TCFDへの賛同</p> <p><b>P.39</b> 環境コミュニケーション</p> <p><b>P.29</b> 丹沢大山自然再生活動</p>
地域社会、NGO・NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域発展への協調と貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会貢献活動</li> <li>地域でのボランティア活動</li> <li>災害人道支援</li> </ul>	<p><b>WEB</b> 社会貢献活動</p> <p><b>P.47</b> パラリンアートへの協賛</p> <p><b>P.57</b> 労働基準に関するイニシアチブへの参加</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESGに関する評価機関とのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種ESG調査アンケート</li> <li>CDPへの回答</li> <li>外部機関からの取引先監査受審(RBA、EcoVadis、SMETA)</li> </ul>	<p><b>WEB</b> ESGインデックスへの組み入れ状況、外部評価</p>

目次・編集方針

Introduction

### サステナビリティ経営

CEOメッセージ

サステナビリティの考え方

サステナビリティ推進体制

マテリアリティ

サステナビリティ経営が目指す未来

事業内容とSDGs貢献領域

サステナビリティ目標とその進捗

### ステークホルダーとの対話・共創

Environment

Social

Governance